

<にたち人権月間 2025 関連事業

# ハンセン病問題を知る・考える

連続講座 と 施設見学・学習会

## <実施報告書>

本事業は、厚生労働省の委託により公益財団法人笹川保健財団が実施している  
2025年度「ハンセン病対策促進事業」の助成を受けて実施しました。

令和8(2026)年2月



国立市

## 1. 実施目的

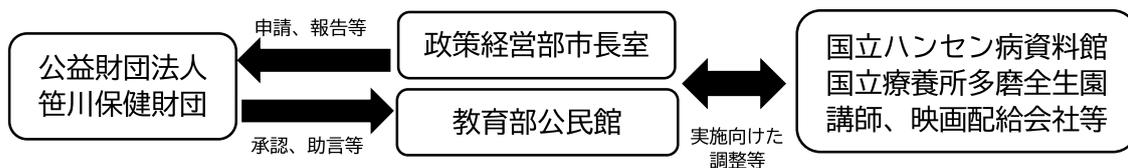
国立市では、令和7(2025)年度において、ハンセン病患者、元患者やその家族に関する人権問題を主なテーマとして、市民等を対象とした学習会(連続講座)及び東村山市に所在する国立ハンセン病資料館、国立療養所多磨全生園の見学・学習会を通じたハンセン病に対する差別や偏見の解消に取り組む事業を実施しました。実施に当たっては、ハンセン病問題の歴史や人権上の重要な問題であることを理解し、偏見や差別の解消に向けて、市民が講演や映像視聴による知識の理解とフィールドワークによる体験的な理解の両面を組み合わせる学びの機会とすることを目的としました。

なお、国立市では年間を通じて様々な人権課題をテーマとした教育・啓発活動を行っていますが、特に国の人権週間(12/4-12/10)の時期に合わせて毎年「くにたち人権月間」と題した取組を実施しています。この「くにたち人権月間」において、令和4(2022)年度には映画「NAGASHIMA ～かくりの証言～」(宮崎賢監督)上映会を行うとともに、令和5(2023)年度には内田博文氏(国立ハンセン病資料館館長)による講演会「ハンセン病と人権を考える」及び八重樫信之氏による写真展・ギャラリートーク「それぞれのカミングアウトーハンセン病回復者ー」を実施するなど、継続的にハンセン病問題を人権上の重要な問題として捉え、その理解促進と偏見や差別の解消に向けた取組を行ってきました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の際には、罹患者やその家族、医療従事者等への誹謗中傷や嫌がらせが社会的な問題になったこともありました。市としては、感染症や疾病と人権問題に関して、引き続き啓発を行っていくことが大切であり、それらの取組を通じて、「ソーシャル・インクルージョン」を基本理念とした人権・平和のまちづくりを一層推進していくこととしています。

## 2. 実施体制

本取組は、人権施策の主管課である政策経営部市長室と、教育部公民館(国立市公民館)において連携して実施しました。



### 公益財団法人笹川保健財団

世界からハンセン病を根絶しようという目標を掲げ、日本財団創始者 笹川良一氏を会長、日本におけるハンセン病化学療法開発の父・石館守三氏を理事長として1974年に設立された団体(2011年に財団法人から公益財団法人へ移行)。

世界各地への助成事業を通じて、ハンセン病への偏見・差別がなく、病に罹患した人が必要な治療やサービスを受け、ハンセン病が問題とならない社会の実現に向けた取組を行っている。

厚生労働省が地域におけるハンセン病問題の解決を促進することを目的に全国の都道府県及び市区町村の事業を助成する2025年度「ハンセン病対策促進事業」を受託している。

### 3. 実施概要

#### (1) 連続講座

国立市公民館において、連続講座として全3回の学習講座を実施しました。

①令和7(2025)年12月13日(土)

講座「いま向き合うハンセン病の歴史」

講師：石居人也氏(一橋大学大学院社会学研究科教授)

②令和7(2025)年12月20日(土)

ドキュメンタリー映画「凱歌」上映会&坂口香津美監督の講演

③令和8(2026)年1月17日(土)

ドキュメンタリー映画「かづゑ的」上映会&熊谷博子監督の講演

※熊谷監督が事情により急遽ご欠席となったため、当日は同映画助監督の土井かやの氏にご講演いただきました。

#### (2) 施設見学・学習会

東京都東村山市に所在する2施設の見学・学習会を実施しました。

実施に当たっては、国立市役所から貸し切りバスでの移動としました。

日時：令和8(2026)年1月23日(金)午後

場所：国立ハンセン病資料館(東京都東村山市青葉町4-1-13)

国立療養所多磨全生園(東京都東村山市青葉町4-1-1)

※いずれも参加費は無料として実施しました。

※(1)は、1講座のみの参加も可能として実施しました。また、(2)の事前学習会として位置付け、原則いずれか1講座以上参加された方を対象として(2)を実施しました。

### 4. 各企画の内容

各取組の詳細は、次ページ以降のとおりです。

事業の案内  
パンフレット

# 連続講座

## ①講座「いま向き合うハンセン病の歴史」

日時 令和7(2025)年12月13日(土) 14時～16時

場所 国立市公民館 3階講座室

講師 石居 人也氏(一橋大学大学院社会学研究科教授)



石居人也氏(中央奥)による講義

### 講演の主な内容

- ✓ハンセン病の歴史や各フェーズ
- ✓隔離に関する問題
- ✓ハンセン病問題を考える際の様々な視点
- ✓質疑応答 など

### 参加者数

27人

うち、公民館で実施する講座にはじめて参加した方5名

### 【参加者アンケートより】

- ハンセン病の歴史、現状、問題点等について、幅広い観点から詳細に講義があり、大変勉強になった。これを機会に学びを深めたい。
- 映画やテレビで見知った情報しかなかったのだが、講師のお話は難しい言葉も少なく、もっと勉強してみたいと考えさせられた。療養されている方たちの今後を考えることも非常に重要だと思った。
- 表面的な歴史や研究結果の報告ではなく、例外的な事柄や安易に考えてはいけない点等の指摘がとても興味深く、このような場でしかできない学びの経験となった。
- 全く知らなかったことがほとんどだった。映画も楽しみだ。
- 知らないことばかり…。それもつい最近のことで、驚きを隠せない。
- 連続講座で深く学べる機会に感謝。ハンセン病のことは断片的な知識しかないので今後も引き続き理解していくために助けになった。講師の研究の緻密さが伺えた。施設見学・学習会も申し込みたいと思った。

※いただいた感想から趣旨が変わらない範囲で修正しています。

# 連続講座

## ②ドキュメンタリー映画「凱歌」上映&坂口香津美監督の講演

日時 令和7(2025)年12月20日(土) 14時~16時30分

場所 国立市公民館 地下ホール

講師 坂口 香津美氏(映画「凱歌」監督)



映画上映後の坂口香津美氏による講演

### 講演の主な内容

- ✓撮影で大切にしたこと
- ✓撮影の経緯や秘話
- ✓質疑応答

など

### 参加者数

40人

うち、公民館で実施する講座  
にはじめて参加した方6名

### 【参加者アンケートより】

- 「生きる」上で大切なことを考えさせてくれる映画。
- 遠い昔の話のように感じていたが、つい最近の事だと気付いた。時間だけは過ぎていくが世の中は何も変わっていない。かたち、対象を変えて差別や偏見は存在すると思う。
- ハンセン病を題材にした映画だったが全ての事に通じるものだったと思った。
- ハンセン病という題材をもとにして、人権とは何か、誰もが平等に生きていく権利というものについて考えるきっかけとなった。若い人や高齢者が参加していて、ハンセン病というものを理解してもらう良い学びの場になっていると思った。
- 坂口監督のお話を最後に聞いて良かった。映画だけでは、詳細が分からないことがあったが、話を聞いて理解できた。
- 予備知識無く映画を観たが、完全に引き込まれ前のめりになった90分間だった。
- 貴重な時間で、ハンセン病の“負”の側面だけでなく、生き方について学んだように思う。坂口監督から直接、製作意図などお話を聞くことができたのも良かった。

※いただいた感想から趣旨が変わらない範囲で修正しています。

# 連続講座

## ③ドキュメンタリー映画「かづゑ的」上映&熊谷博子監督の講演

日時 令和8(2026)年1月17日(土) 14時~17時

場所 国立市公民館 地下ホール

講師 土井 かやの氏(映画「かづゑ的」助監督) ※熊谷監督は事情によりご欠席



映画上映後の土井かやの氏の講演

### 講演の主な内容

- ✓撮影の経緯や秘話
- ✓撮影で大切にしたこと
- ✓かづゑさんとの撮影時のやりとりや後日談
- ✓質疑応答

など

### 参加者数

31人

うち、公民館の講座にはじめて参加した方1名

### 【参加者アンケートより】

- 施設見学・学習会に参加する前に、具体的な「人」の姿を知ることによって新しい気持ちでハンセン病問題、差別の実相と向き合うことができると感じた。
- シリーズものとして勉強できることはとても有意義だと思う。
- 今回の映画を観て、今まで自分が思っていたことと違う点多々あり驚きだった。かづゑさんの「ちゃんと生きた」という言葉が胸に残った。
- 前回(12/20(土))と異なる視点の描かれ方の映画で、いろいろな表現に触れるチャンスになってとてもよかった。
- 「ハンセン病」ではなく「らい」を受け入れるというかづゑさんの発言、宿命を受け止めている態度に感動した。また、慰問団が「ふるさと」を歌うことへの憤りの気持ち、差別の本質を知らない人への抗議の意思だと思った。土井助監督のお話とても興味深かった。
- 「ハンセン病」として大きく括られがちなテーマを、より個人にフォーカスしたドキュメンタリー映画であったが、大枠の知識よりももっと深きところに想いを馳せるきっかけになった。

※いただいた感想から趣旨が変わらない範囲で修正しています。

# 施設見学・学習会

## 国立ハンセン病資料館、国立療養所多磨全生園

日時 令和8(2026)年1月23日(金) 13時~16時30分

場所 現地(東村山市)

参加者 30人(市民等24人、市職員6人)



濱崎真也市長も参加されました

### = 行程 =

- 12時15分 国立市役所発(貸切バスで移動)
- 13時 国立ハンセン病資料館着  
見学前ガイダンス、館内見学
- 14時30分 多磨全生園内の見学
- 16時 事業全体のまとめ
- 16時30分 国立ハンセン病資料館発
- 17時20分 国立市役所着

### <国立ハンセン病資料館>



事前ガイダンス

- ✓学芸員による見学前ガイダンス
- ✓館内見学  
展示室1「歴史展示」、展示室2「癩療養所」  
展示室3「生き抜いた証」、証言コーナー

### <国立療養所多磨全生園>



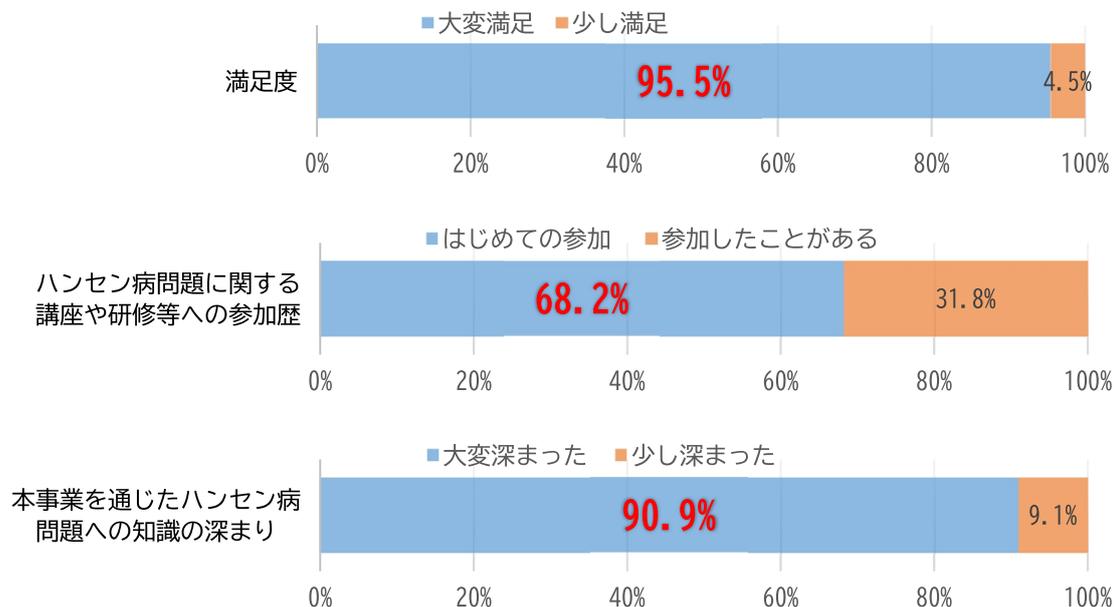
山吹舎



全生学園跡と望郷の丘

- ✓園内見学(学芸員による解説あり)  
納骨堂・尊厳回復の碑、山吹舎、  
望郷の丘、全生学園跡、旧図書館、  
けやきと一人一木並木、けやきの丘、  
いのちとところの人権の森宣言碑
- ✓質疑応答

## 施設見学・学習会(1/23金)参加者 アンケート結果



### 【参加者アンケートより】

- ハンセン病に関する講座をもっと増やして多くの人に知ってもらいたい。
- 今回の取組（講座・映画・見学）の流れが、とても効果的に様々なことを感じさせてくれた。
- これからもこのような企画に参加したい。みなさんと一緒に勉強したい。
- 内容が充実したとてもよい企画だった。
- 大変意味がある事業だと思う。今後も続けていただき多くの人を知ることが大切だと思う。
- 「寝た子を起こすな」と言われることがあるが、まずは知ることが大事。
- 事実をきちんと学んで理解することで、差別や偏見が改善されていく部分もある。今回のように、自分の目で見て・耳で聞いて・肌で感じることで、より身に付いていくのではないか。

※いただいた感想から趣旨が変わらない範囲で修正しています。

### 本事業全体の参加者数

講座① (12/13(土))	講座② (12/20(土))	講座③ (1/17(土))	施設見学・学習会 (1/23(金))	合計 (延べ数)
27人	40人	31人	30人	128人